



2022年第1四半期 決算説明会

株式会社ブリヂストン

2022年5月11日

BRIDGESTONE
Solutions for your journey

1. 2022年第1四半期 連結業績 … 2
2. 2022年 通期見通しについて … 14

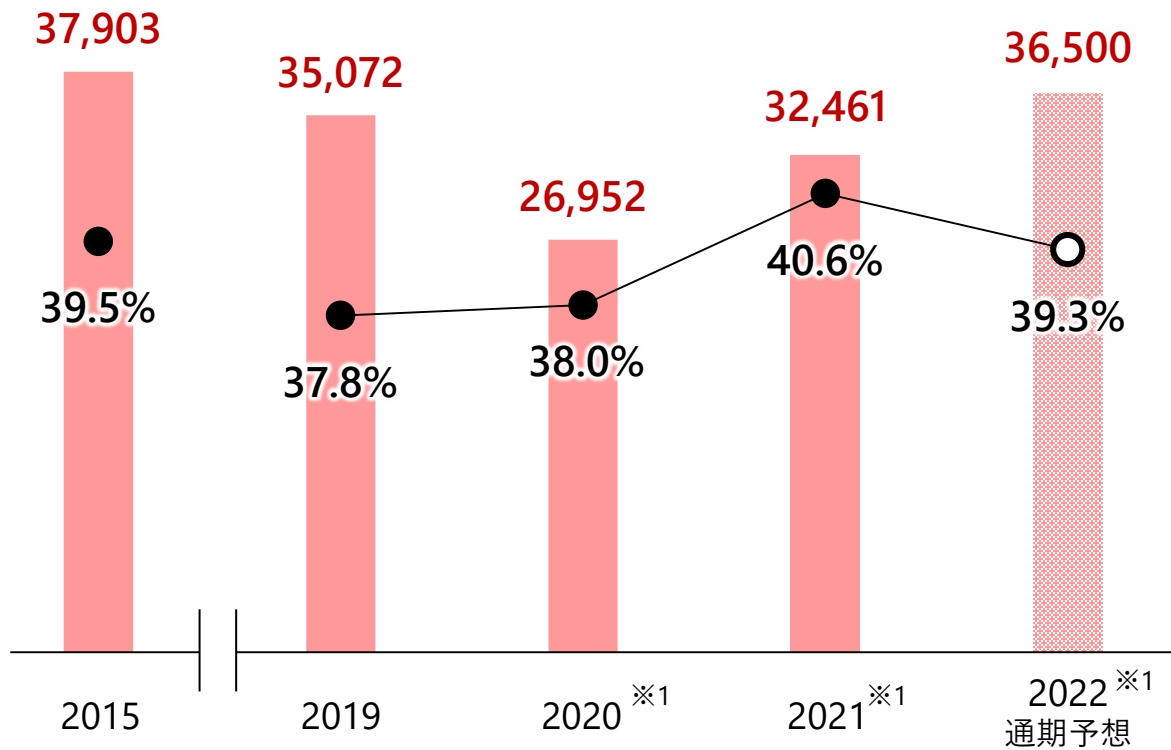
1. 2022年第1四半期 連結業績

2022年 通期業績予想

(2022年2月に発表した数値から変更ありません)

売上収益／粗利率

■ 売上収益[億円] — 粗利率[%]

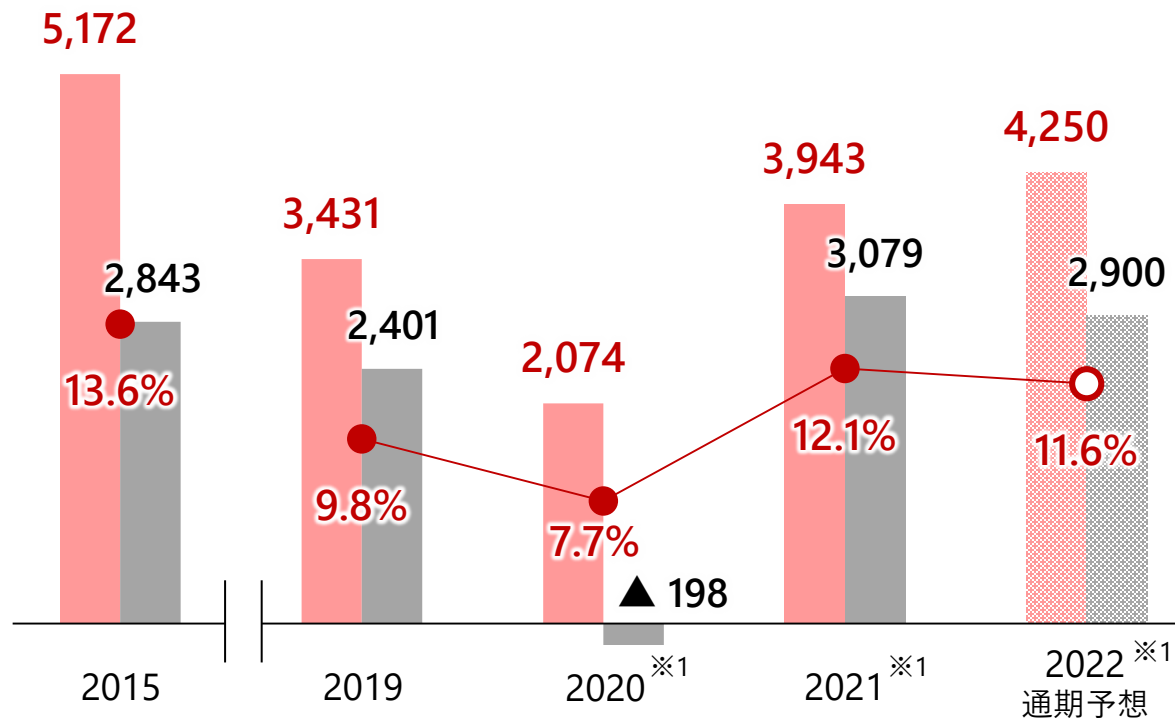


日本会計基準

IFRS基準

調整後営業利益／継続事業からの当期利益

■ 調整後営業利益[億円] ■ 継続事業からの当期利益[億円] ^{※2}
— 調整後営業利益率[%]



日本会計基準

IFRS基準

※1. 米国建築資材事業、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を除く「継続事業」の金額を表示しております。

※2. 「親会社の所有者に帰属する当期利益又は損失」を記載しております。

2022年第1四半期 連結業績

(単位：億円)

	2021年 第1四半期実績		2022年 第1四半期実績 ※	前年比増減 (%)
	組替前 (21年第1四半期 開示数値)	組替後 ※		
売上収益	7,569	7,272	8,910	+23
調整後営業利益	823	848	1,011	+19
利益率	10.9%	11.7%	11.3%	△ 0.3pp
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	2,852	2,852	538	△ 81
-うち継続事業	603	632	654	+3
-うち非継続事業	2,250	2,220	△ 116	-

※ 2021年第1四半期では米国建築資材事業を「非継続事業」に分類しておりましたが、2021年12月発表の事業譲渡の決定に伴い、2021年第4四半期より新たに防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。これに伴い、売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額を表示しております。

2022年第1四半期 業績概要

第1四半期 ハイライト

- ウクライナ情勢の緊迫化、中国のCOVID-19再拡大、米国子会社におけるサイバー攻撃など、様々な経営リスクが顕在化する中、フレキシブルでアジャイルなリスクマネジメントによりダメージを最小化しながら、グローバルでのタイヤ販売拡大を推進し、前年同期比大幅な増収増益を達成。
- 未曾有の原材料高騰・インフレ進行への対応として、各地域における「売値マネジメント」・「プレミアムビジネス戦略」をより一層強化し、コスト増によるマイナス影響を、売値と販売Mixの改善によるプラス影響で概ね吸収。
- 半導体不足に伴う自動車の減産を受け新車用タイヤ需要が減少する一方、先進国を中心に市販用タイヤ需要が前年比大きく増加。当社の強みであるグローバル生産体制を基盤としたフレキシブルな供給マネジメントにより需要の変化に対応し、市販用タイヤの販売が大きく伸長。

第1四半期 財別概況

PS/LT (乗用車/ライトトラック用)

- 高インチタイヤを中心に販売を拡大 – 22年1Q PSR-HRD (18インチ以上) 販売 : 対前年112% ※市販用のみ 125%
- 市販用 : 米欧は、昨年来の相次ぐ値上げの中でも堅調な販売が続く。日本は、値上げ前の駆け込みにより1Qは大幅販売増。
- 新車用 : 自動車各社の減産影響を受け、前年対比で需要が大きく減少。

TB (トラック・バス用)

- 市販用 : 旺盛な建設需要/運送需要を背景に米欧での販売好調。日本は、値上げ前の駆け込みにより1Qは大幅販売増。
- 新車用 : トラクター生産における半導体不足の影響を受けるも、PS/LTと比較すると影響は限定的。

OR (鉱山用、建設用)

- 鉱山用 : 鉱物価格上昇の追い風の中、断トツ商品“MasterCore”の拡大などで市場シェアを伸ばし、対前年大幅販売増。
- 建設用 : 北米を中心としたインフラ/建設需要に伴い、市販用・新車用ともに販売が大きく伸長。

2022年第1四半期 事業環境 / タイヤ需要



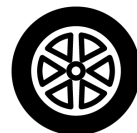
為替

- USD、EURともに前年比円安で推移
1USD=116円 1EUR=130円 (参考) 21年第1四半期 1USD=106円 1EUR=128円



原材料

- 天然ゴム：21年下期に比べ高値圏で推移も、比較的落ち着いた値動き。
- 原油：地政学リスクを背景に価格急騰し、2月には\$100/bblを突破。



タイヤ需要 (PSR/TBR)

- 新車用：半導体不足による自動車減産に伴い、全地域で需要が減少。
- 市販用：米欧の堅調が継続。
日本では値上げ前の駆け込み影響により、対前年大幅増。(2Qに一定の反動減を想定)

相場動向 (平均価格) 推移

※1 Source: Singapore Commodity Exchange Limited 期近市況価格

	2021年				2022年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
天然ゴム (TSR20)※1 (¢/kg)	167	165	166	173	177
天然ゴム (RSS#3)※1 (¢/kg)	234	221	185	193	210
原油 (WTI) (\$/bbl)	58	66	71	77	95

タイヤ需要 (本数 対前年/対19年)

	PSR (乗用車/ライトトラック用)				TBR (トラック・バス用)			
	OE(新車用)		REP(市販用)		OE(新車用)		REP(市販用)	
	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年
日本	85%	75%	123%	120%	86%	93%	152%	145%
北米	91%	75%	105%	105%	101%	87%	106%	125%
欧州	86%	75%	116%	110%	98%	90%	111%	121%

2022年第1四半期 タイヤ販売本数：対前年 / 対19年



PSR/LTR

	対前年	対19年
グローバル	107%	98%
OE (新車用)		
グローバル	93%	82%
日本	89%	79%
北米	96%	85%
欧州	82%	72%
中国・アジア・大洋州	100%	85%

REP (市販用)

グローバル	115%	108%
日本	131%	124%
北米	112%	95%
欧州	124%	114%
中国・アジア・大洋州	99%	86%



TBR

	対前年	対19年
グローバル	107%	105%
OE (新車用)		
グローバル	98%	88%
日本	86%	98%
北米	99%	77%
欧州	107%	99%
中国・アジア・大洋州	96%	103%

REP (市販用)

グローバル	111%	112%
日本	160%	146%
北米	109%	124%
欧州	126%	140%
中国・アジア・大洋州	88%	76%



ORR

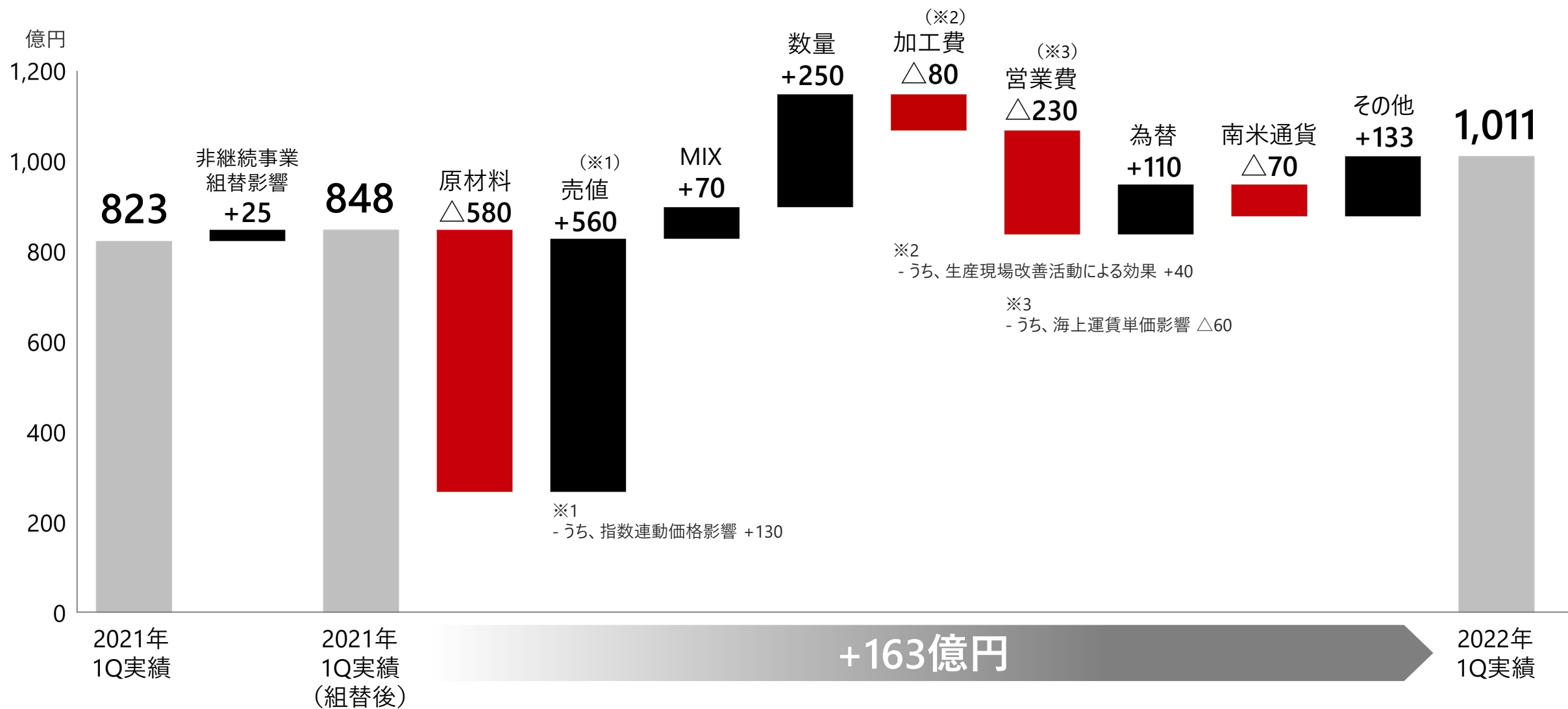
	対前年	対19年
超大型(REPのみ)	121%	106%
大型	119%	108%
OE	159%	128%
REP	105%	100%
中小型	112%	104%
OE	107%	98%
REP	115%	109%



PSR 18インチ以上

グローバル	112%	123%
REP	125%	153%

2022年第1四半期 調整後営業利益増減要因：前年差



2022年第1四半期 セグメント別業績




(単位：億円)

		2021年 第1四半期実績	2022年 第1四半期実績	前年比増減 (%)
連結	売上収益	7,272	8,910	+23
	日本	1,959	2,377	+21
	米州	3,110	3,905	+26
	欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	1,639	2,059	+26
	中国・アジア・大洋州	917	1,043	+14
連結	調整後営業利益	848	1,011	+19
	日本	211	316	+50
	米州	384	434	+13
	欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	81	199	+144
	中国・アジア・大洋州	129	103	△ 21

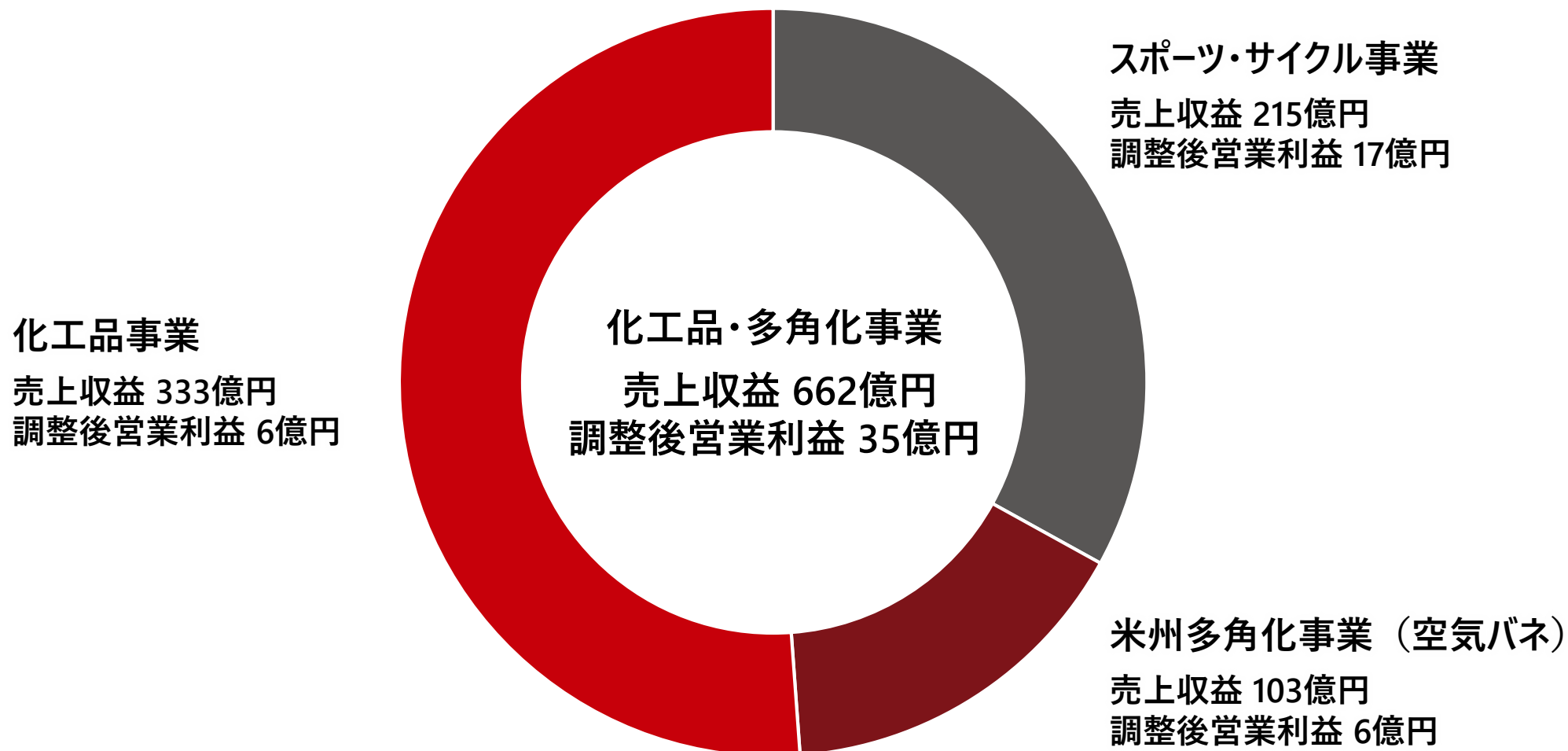
※ P.4に記載の通り、米国建築資材事業、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類し、組み替えた金額を表示しております。

2022年第1四半期 タイヤ事業 財別業績

(単位：億円)

		2021年 第1四半期実績	2022年 第1四半期実績	前年比増減 (%)
 PS/LT <small>※小売・クレジットカード事業を含む</small>	売上収益	3,866	4,815	+25
	調整後営業利益	552	554	+0
	利益率	14.3%	11.5%	△ 2.8pp
 TB <small>※リトレッド事業を含む</small>	売上収益	1,781	2,201	+24
	調整後営業利益	208	214	+3
	利益率	11.7%	9.7%	△ 1.9pp
 Specialties (OR/AC/AG/MC)	売上収益	870	1,143	+31
	調整後営業利益	171	235	+38
	利益率	19.6%	20.6%	+0.9pp

2022年第1四半期 化工品・多角化事業 事業別業績 (継続事業ベース)



※ 事業譲渡の決定に伴い、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。
売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額となります。

2022年第1四半期 財政状態計算書及びキャッシュ・フローハイライト

(単位：億円)

	2021年期末実績	2022年第1四半期期末実績	対前年末
資産合計	45,749	46,905	+1,156
資本合計	26,754	27,692	+939
親会社所有者帰属持分比率	57.5%	58.0%	+0.5pp
有利子負債〈ネット〉	236	1,212	+976
	2021年第1四半期実績	2022年第1四半期実績	対前年同期
営業CF	909	660	△ 249
投資CF	2,898	△ 740	△ 3,639
フリーCF	3,807	△ 81	△ 3,888
設備投資	372	352	△ 20
減価償却費及び償却費	601	643	+43

2022年第1四半期 「調整項目」及び「非継続事業からの四半期損失」について

2022年 第1四半期実績

(単位：億円)

売上収益	8,910
調整後営業利益	1,011
調整項目	135
営業利益	876
税引前四半期利益	931
継続事業からの四半期利益 ※	654
非継続事業からの四半期損失 ※	△ 116
親会社の所有者に帰属する四半期利益	538

※ 「親会社の所有者に帰属する四半期利益又は損失」を記載しております。

1) 調整項目

(単位：億円)

調整項目	135	主な内容
減損損失	128	ロシア事業用資産
災害損失	10	-
その他	△ 3	事業・工場再編収益 他

2) 非継続事業からの四半期損失

- 事業譲渡の決定に伴い、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。
- これにより、下記①、②の合計116億円を「非継続事業からの四半期損失」として計上しました。

① 事業譲渡に係る損失

② 2022年第1四半期に同 2 事業において計上した四半期損失

2. 2022年 通期見通しについて

2022年 通期見通しについて

為替／原材料／タイヤ需要見通し



為替

- 第2四半期以降の為替水準として、1USD=120円（通期1USD=119円）、1EUR=130円（通期1EUR=130円）を想定。



原材料

- 天然ゴム・原油ともに、引き続き高値圏での推移を想定。



タイヤ需要

- 新車用：自動車減産影響の継続見通しに基づき、2月時点の想定からの下振れを見込む。
- 市販用：米欧の需要が堅調な一方、新興国需要が悪化。2月時点の想定と同程度を見込む。

通期業績予想について

- 2022年通期業績予想は、2022年2月に発表した数値から変更ありません。
- 業績予想の前提は下記の通りです。
 - ① 原材料高騰は減益影響が2月時点の想定より大きく拡大する一方、その影響をほぼ全て「売値」で吸収する見通し。
調整後営業利益 対前年増減額：【2月想定】 原材料 Δ 1,450億円 \Leftrightarrow 売値 +1,950億円
【最新見通し】 原材料 Δ 2,400億円 \Leftrightarrow 売値 +2,890億円
 - ② 為替前提の変更に伴い、円安影響にて2月時点の想定からさらに330億円の増益効果となる見通し。
- 今後の事業環境や当社業績の推移を踏まえ、業績予想に大きな変更が出る場合は、その時点で速やかに開示致します。



免責条項

本資料に掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などのうち歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。そのため、今後の当社を取り巻く経済環境・事業環境などの変化により、実際の業績が掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などと大きく異なる可能性があります。従いまして、投資に関する決定はご自身のご判断においてなさるようお願いいたします。